第21回デフリンピックの開催について

障害保健福祉部企画課自立支援振興室

第20回夏季デフリンピック（オーストラリア、メルボルン）の開会式の様子

1 大会概要

平成21年9月5日（土）～15日（火）までの11日間、台湾の台北市において、「第21回デフリンピック」が開催されます。当大会には、81か国・地域から約550名が参加して、19の競技を競います。日本からは245名（選手154名、役員91名）が選手団として参加し、陸上、水泳、卓球、テニス、バドミントン、ボウリング、バスケットボール、バレーボール、ビーチバレー、サッカー、柔道、空手の12競技に挑みます。

デフリンピックは、聴覚に障害のあるアスリートの国際大会です。「デフリンピック」とは、英語の「Deaf」（耳の聞こえない）と「Olympics」（オリンピック）の合成語（deaflympics）で、「オリンピック」、「パラリンピック」同様、聴覚障害スポーツ最高峰の大会となっています。

当大会は、障害当事者である聴覚障害者自身が運営し、参加者が国際手話によるコミュニケーションで友好を深められるところに特徴があります。競技は、スタートの音や審判の声による合図を視覚的に工夫する以外、オリンピックと同じルールで運営されます。オリンピック、パラリンピック同様、夏季大会と冬季大会がそれぞれ4年に一度開催されています。

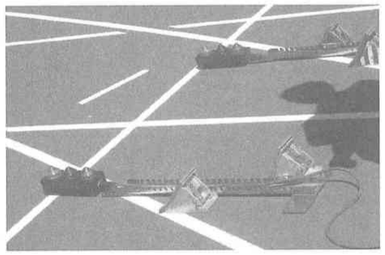
2 デフリンピックの歴史

デフリンピックの歴史はパラリンピックよりも古く、1924年にフランスで夏季大会が初めて開催され、1949年には第1回の冬季大会がオーストリアで開催されました。日本は、夏季大会には、1965年の第10回大会（米国、ワシントン）から、冬季大会には、1967年の第6回大会（西ドイツ、ケルン）から参加しています。

3 日本選手の活躍

2005年に開催された前回のメルボルン大会（オーストラリア）では選手102名が10競技に参加し、金3個、銀7個、銅1個の合計11個のメダルを獲得しています。中でも水泳女子が、2つの金メダルを獲得するという活躍をみせてくれました。また2007年に開催された冬季デフリンピック（米国、ソルトレイク）では選手17名が4競技に参加し、金3個、銅1個の合計4個のメダルを獲得するなど、夏季・冬季いずれにおいても日本選手として参加回数を重ねるごとに躍進しています。

今回の大会においても、水泳、陸上などで聴覚障害者における日本新記録、世界新記録を出したメダル獲得が有力視される選手を中心に選考して選手団を結成しました。すべての競技を通して40個のメダル獲得を目指しており、全選手の活躍が期待されます。



試合前に練習する陸上競技の選手たち。聴覚障害者にスタートの合図がわかるよう、ランプが光って合図する

水泳競技もスタートの合図にランプが使われている

2005年のメルボルン大会。水泳競技では初の金メダルを獲得し喜び合う選手たち